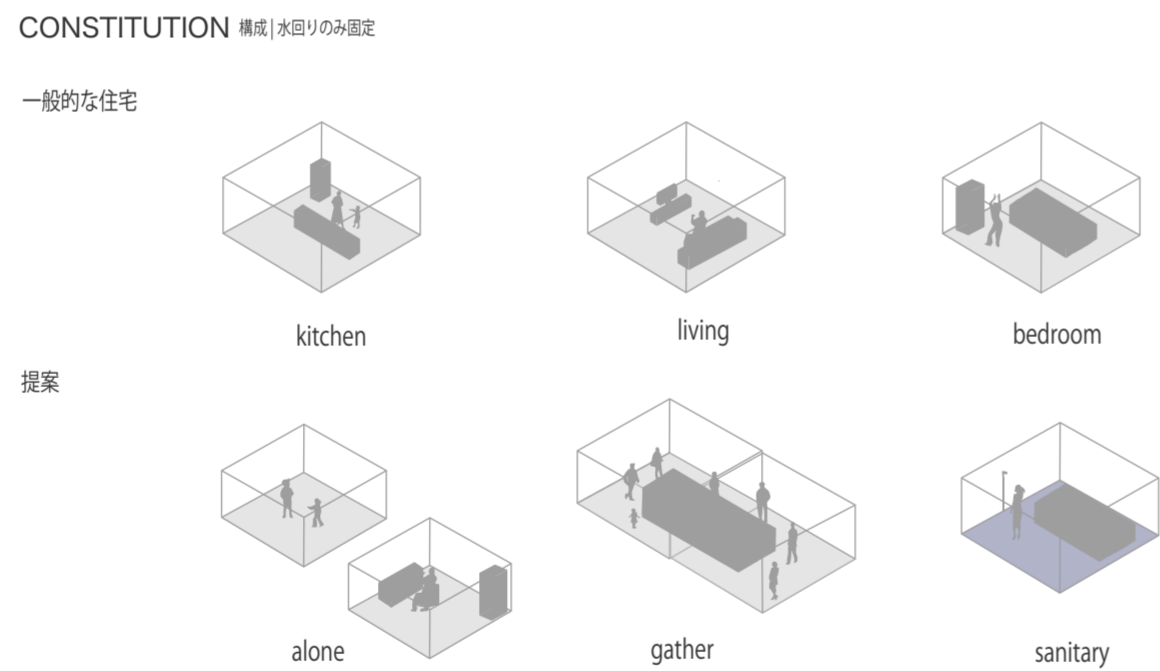
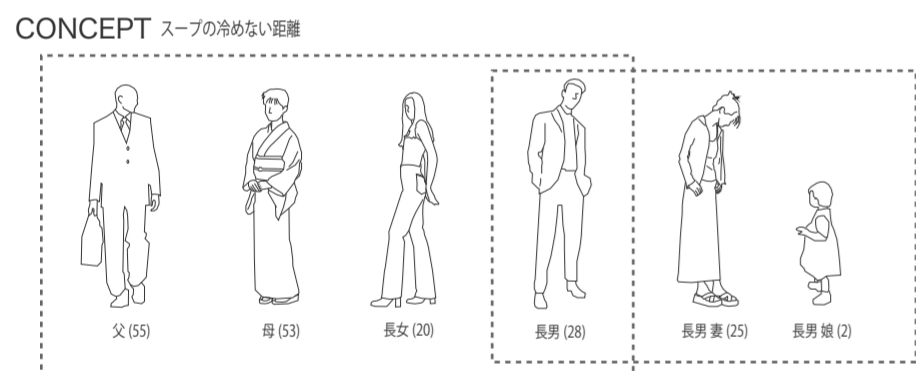
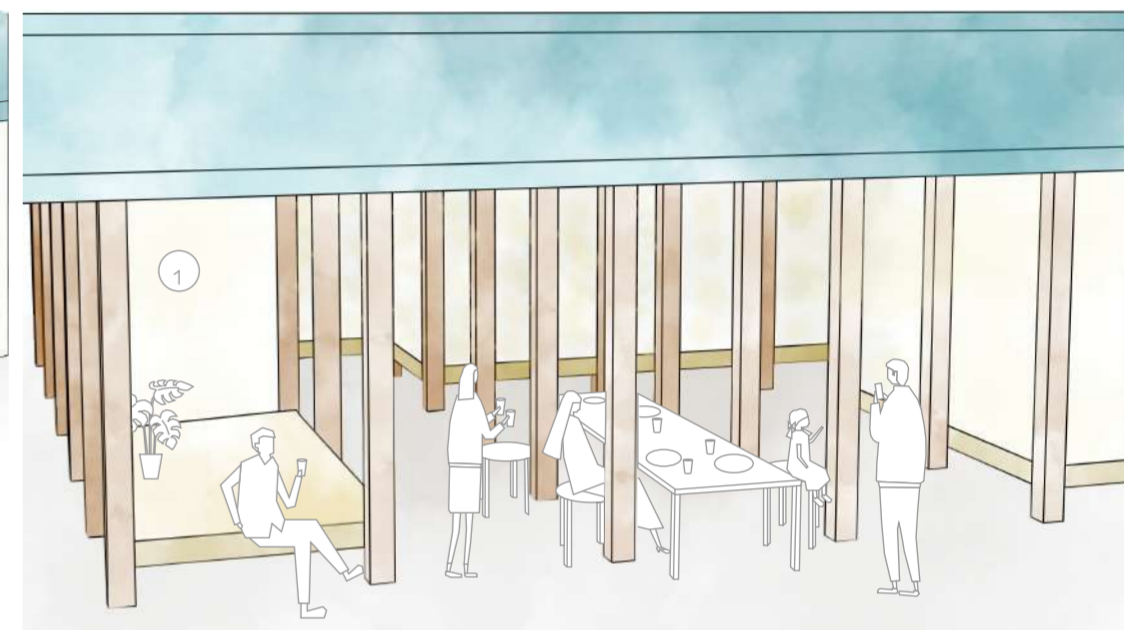
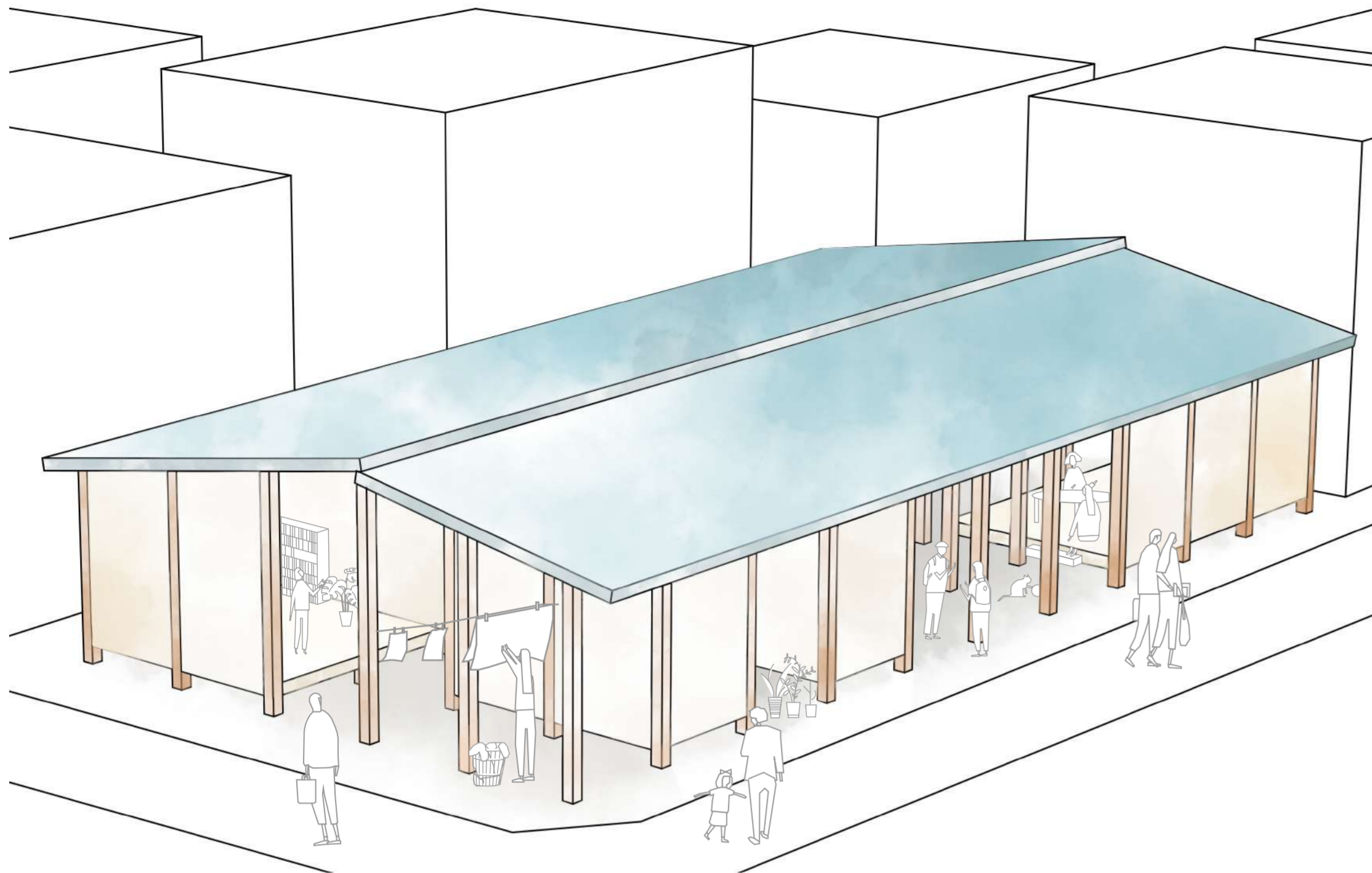


スープの温かい『うち』に



「スープの冷めない距離」という言葉があるが、なぜ一緒に住まないのか。義実家は気をつかう、適度な距離が良いなど人によって理由は様々だろう。しかしこれからは共働きの増加や、親世帯の介護などから同居が好ましい場合も増えていく。ならば一緒に生活しながらも個人のプライベートは保たれ、集まりたい時に集まることができる家があったらどうか。リビング、ダイニングなど動作や用途ではなく、「離れる」「集まる」で部屋を作っていく。床や壁をスライドさせることで部屋は形を変え、時間や時代ごとに家自体も変化していく。毎日利用する水回りのみを共有空間とすることで家族は完全に別居することなく、適度な距離で安心できる、今までにない敷地内同居の提案である。

